

多彩な資源が輝き、 活力と魅力にあふれるまち

昨年は、主力であるサンマ漁の記録的な不漁をはじめ、秋サケやコンブの水揚げ量の落ち込みなどがあり、水産業を取り巻く環境は一層厳しさを増しております。

こうした中、水産加工用原魚の確保については、イワシ巻き網漁船を誘致し、サンマの不足分を補ってきたところでありますが、今後は、沿岸漁業における増養殖事業等の推進が最も重要であることから、厚岸漁業協同組合と連携しながら、新たな魚種の模索や増養殖の可能性の検討と資源増殖に向けた対策に取り組んでまいります。

特に、『カキえもん』に並ぶ厚岸ブ



ランドの『弁天かき』の種苗生産が行われている厚岸漁業協同組合のカキ人工種苗生産施設は、沿岸漁業の振興に非常に有益な施設であることから、引き続き幼生や餌料の提供、技術的な協力など、しっかりと支援してまいります。

厚岸漁港の整備は、若竹第2埠頭ふしうにおける屋根付き岸壁や人工地盤、清浄海水取水施設等の衛生管理型漁港施設が、本年7月末に完成予定となっており、その供用開始に向けて準備を進めるとともに、4月から若竹第2埠頭基部に漁港休憩施設を新たに開設し、外来漁船の受け入れ体制の充実を図ってまいります。

未着手箇所が多い海岸保全対策については、早期整備を北海道に強く要望するとともに、昨年度に着手した床潭漁港の泊地の静穏域確保に向けた防波堤が早期に整備されるよう、引き続き北海道へ要望してまいります。

カキ種苗センターについては、供用開始から20年を経過し、地域内で完結するカキ生産サイクルの構築により、市場への供給量が増え、『カキえもん』が広く流通するようになりました。これは、生産者が品質向上に向けて、労を惜しまず育成管理に励み、日々養殖方法の改良に取り組まれてきた成果であると考えております。



引き続き、生産者が安心して生産活動を行えるよう、良質な種苗の安定供給に努めるとともに、生産者の取組に対する技術的な支援を継続してまいります。

昨年は、天候にも恵まれ、生乳生産量も前年並みに推移したところですが、国際競争力の強化の必要性が一層求められていることから、引き続き農業経営や生産基盤の強化の取組を進めるとともに、良質な粗飼料を安定的に確保するため、道営事業による釧路太田東部地区、釧路太田西部地区、町営牧場の大別地区の草地整備事業を継続してまいります。

また、農業従事者の省力化や施設の規模拡大等については、引き続き、

釧路太田農業協同組合が実施している片無去地区の育成牛預託施設の整備と、浜中町農業協同組合がトライベツ地区に配置する農業機械の導入を支援してまいります。

担い手対策については、農業従事者の高齢化や担い手不足が農業経営を維持していく上で重要な課題となっており、今年も昨年同様、1組の着業が予定されておりますが、新たな担い手確保のため、関係機関と連携して新規就農者の誘致に取り組んでまいります。

中山間地域等直接支事業及び多面的機能支事業については、地域に根ざした活動を支援するとともに、酪農地域の減災対策や低コストで有益な手法による家畜ふん尿の有効利用についても、釧路太田農業協同組合との協議により、課題等の整理を行ってまいります。

家畜防疫ぼうえんきについては、厚岸町家畜自衛防疫協議会など関係機関と連携し、予防注射や衛生検査を支援するほか、牛ウイルス性下痢病の対策として、町営牧場の隔離牛舎かくりにおいて徹底した衛生管理の下、遺伝子検査等を実施し、清浄化に取り組んでまいります。

町営牧場については、冬季舎飼しやうがひで使用する給水施設の改修等に着手するほか、将来を見据え、牧草收穫等作業機の大規模化を図るとともに、作